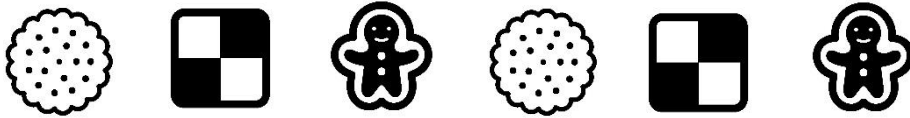


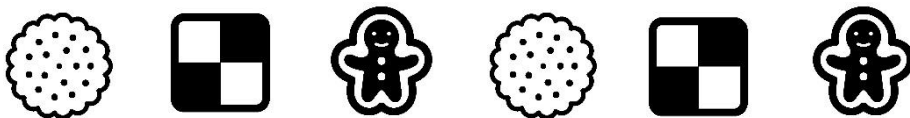
1 クッキーが6こあります。

ワークシート1枚あたりの問題数を少なめにして、取り組みやすくしています

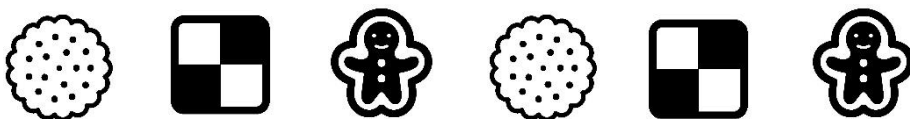
① たろうさんは、左から2こもらいました。たろうさんがもらったクッキーに○をつけましょう。



② まいさんは、右から4番目のクッキーをもらいました。まいさんがもらったクッキーに○をつけましょう。



③ けんたさんは、右から3こもらいました。けんたさんがもらったクッキーに○をつけましょう。



見 本

1 に数字を入れて、^{しき}式を^{かんせい}完成させましょう。

$$5 + \boxed{} = 7$$

$$5 + \boxed{} = 9$$

$$5 + \boxed{} = 6$$

$$5 + \boxed{} = 8$$

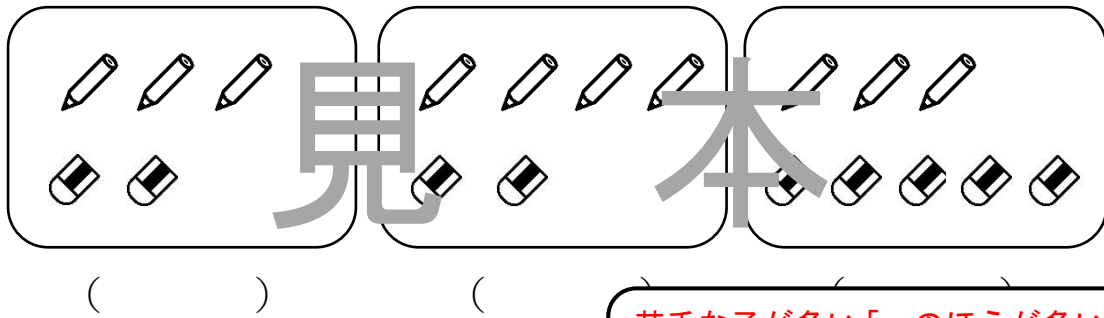
たし算とひき算は5と10の
計算を中心に、計算力の土台を
固めます

$$9 - \boxed{} = 5$$

$$9 - \boxed{} = 5$$

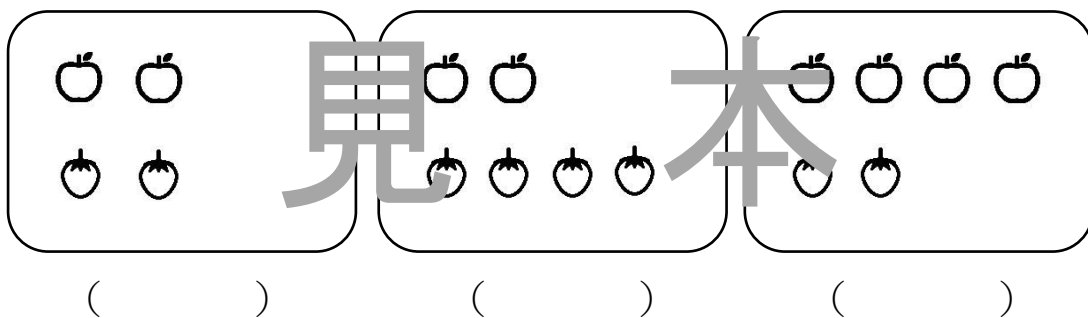
$$7 - \boxed{} = 5$$

- 1 えんぴつよりも消し^けゴムのほうが2こ少ないです。
正しい図の()に○をつけましょう。



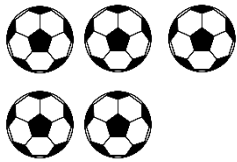
苦手な子が多い「~のほうが多い」
を、図を選ぶだけの問題で
基礎固めします

- 2 リンゴのほうが、いちごよりも2こ多いです。
正しい図の()に○をつけましょう。



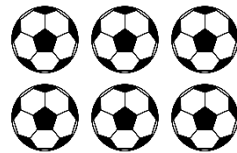
1 正しい図と式を選び、() に○をつけましょう。

① ボールが3こありました。新しいボールを2こ買いました。
ボールは全部でいくつになりますか。



$$3 + 2 = 5$$

()



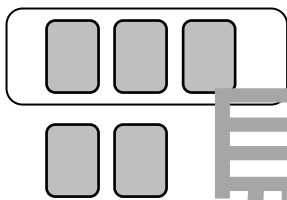
$$3 \times 2 = 6$$

()

↑どちらかに○をつけましょう

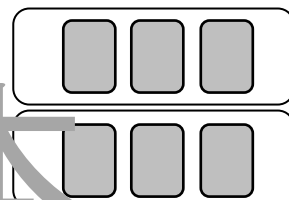
文を読み、イメージして、立式するまでを、スモールステップで学んでいきます

② 1セット3まい入りのカードがあります。2セット買うと、カードは何まいになりますか。



$$3 + 2 = 5$$

()



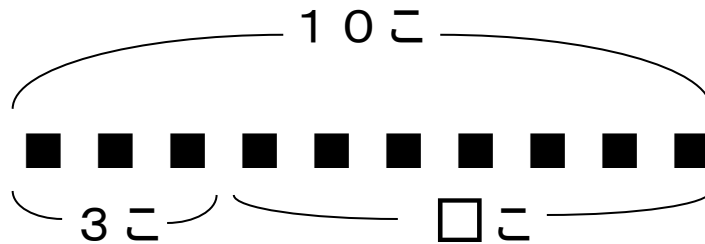
$$3 \times 2 = 6$$

()

↑どちらかに○をつけましょう↑

1 図の□にあてはまる数を答えてみましょう。

①

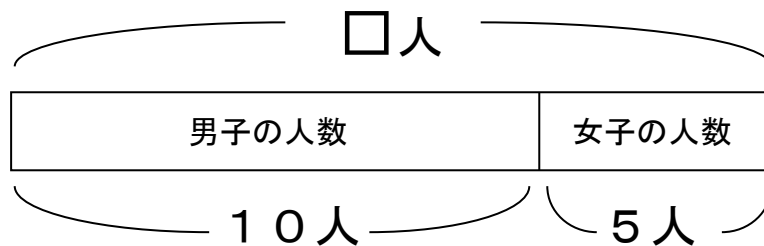


(答え) _____

■チャレンジ (読んでおこう) ■

上の図を問題文にしてみよう。たとえば、「10このおあめがありました。けんたさんが3こもらい、^{もんだい}のこりをまいさんがもらいました。まいさんがもらったあめはいくつですか」などの問題になります。

②



(答え) _____

■チャレンジ (読んでおこう)

上の図を問題文にしてみよう。男子が10人、女子が5人います。み

本来、文章題等を分かりやすくするために利用する図ですが、図があるために理解が難しくなる子もいます。図の意味をスモールステップで学び、理解を促します。

解答とポイント解説

●ステージ9 図の利用

60 ① ①7、②15

61 ① ①4、②14、③10

■チャレンジ(考えよう)■の例

①10cmのริボンを2つに分けたら、

②ちょうちよのたまごを扱
たまごは合わせていくつ

③まいさんのクラスは20

解説編では、指導のポイントを一階ごごとに掲載。
目的や意図を踏まえた指導に活かしていただけます。

62 ① ①3、8 ②2、16 ③10、70 / 63 ① ①20、80 ②130、150 ③20

【指導のポイント】

ステージ9のテーマは「図の利用」で、「線分図」と「めもり」の2つの内容に分かれています。

線分図は本来文章題の理解を助けるために書くものですが、逆に図の意味が分からずに混乱してしまう子もいます。そのため、実際に個人で数えられる図からスタートし、小さな数字のみを用いた線分図の問題で定着を図ります。

めもりを読む力は、長さはもちろんかさ(容積)の学習や棒グラフのめもりを読む時など、さまざまな場面で活用できる力です。1めもりが1ではなく、2だった、10だった、たりする場合はなかなか難しく、高学年になってもなかなか理解できない子もいます。1めもりがいくつなのかをきちんととらえるように教えるとともに、すべてのめもりの下に数字を書いていくなど、お子さんの理解度に合わせて指導してください。なお、ステージ7の数列の学習とも関連がありますので、合わせて取り組むようにしてください。

本教材の制作意図と活用について

本教材は、主に小学校1年生から3年生の学習内容の中から、「数の概念」「計算」のつまずきやすいポイントを復習する目的で作成しています。特に苦手さがあるお子さんを念頭に、数の概念の基礎や計算の基礎スキルを高めるためのさまざまな教材を取り入れています。特別支援教育でのノウハウを取り入れつつも、特別な方法を教え込むようなスタイルではなく、むしろ通常の算数の学習よりもステップを細分化して取り組むことでの定着を目指しています。

例えば、繰り上がりや繰り下がり、桁数の多い計算などは、市販の教材でも豊富な問題があり比較的スモールステップで取り組めるようになっています。これらの計算が苦手な子に対しては、繰り返し筆算のスキルを教えたり、特別な方法を伝えることで習得できることもあります。そもそもところで10の合成分解ができていないことや、数を正確に書けないため、スキルを伝えても繰り返しミスをしてしまうことになり、その背景には数の概念の獲得の問題があると思われます。そのため本教材では、たし算とひき算では5や10の計算のみを扱い、基礎的な概念の定着を図ることからはじめています。

文章題についても、文の内容理解やイメージとして捉えるという段階から、立式、計算、答えの単位を考えるなど、解くためにはいくつものステップがありますが、本教材では、図や式を選択する問題や、単位を選択する問題を設けるなど、細分化して取り組めるようにしています。

また、各ステージでの解説に記した通り、本教材は、先の学年の単元や生活力の向上を見越した上で、身につけておきたい力をポイントを絞って復習できるようにも構成しています。例えば、約分や通分で困らないようにする方法でのかけ算の復習や、お金の数え方につなげるための数列問題などがあります。

このような観点で制作をしましたが、ただ問題を解くだけでなく、必要などころに線をひいたり色分けをしながらすすめることや、類似問題で解説をしてから取り組むなど、お子さんの状態に合わせてさまざまに活用していただけると幸いです。また、主に文章題については、「計算のない文章題」として『読むカトレーニング』『読むカトレーニング基本編』も既刊となっています。合わせてご活用ください。

算数で困っているひとりひとりのお子さんに本教材が届き、成長につなげていただけることを切に願っています。